

平成28年度農地中間管理事業に関わる稲作部会意見交換会結果

1. 開催日時 平成28年6月24日（金） 14:30～17:00
2. 開催場所 山武市文化会館のぎくプラザ 第1会議室
3. 主催 (公社)千葉県園芸協会
4. 参加者 担い手：9名（(一社)千葉県農業協会稲作部会の担い手）
関係機関：19名

5. 概要

意見交換の結果、農地の集積・集約化を進めるに当たり、以下の意見が出された。

(1) 未整備（古い基盤整備も含む）による耕作条件の問題

- ア まず基盤整備を実施し、効率的に耕作ができるように、県主導で取り組んでもらいたい。
- イ 担い手が地域で土地改良事業を推進する声を上げようとしても、地主は「耕作者の利益のためになぜ」と考えている方もいるので、声を上げにくい。
- ウ 地元負担が極力少なくなる基盤整備の方法はないのか（県から経営体育成基盤整備事業において、促進計画の担い手への集積の達成率に応じて地元負担が減らせることを説明）。
- エ 農道が狭いと車両との行き違いができない。また、古い整備では農道が袋小路となっているので、今後はその点に注意して整備してもらいたい。なお、農道を舗装すると一般車両が多くなるのでトラブルの原因となる。

(2) 農地の維持管理に対する地元の協力体制の問題

- ア 集積を進めるのは良いが、規模が拡大すれば草刈等の維持管理に関する対応が困難になってくる。これは集積を進める上での重要な課題となる。
- イ 地域によって農地の草刈り等の地域活動に対する温度差が大きい（ある地域では担い手は畦畔のみの草刈りだが、別の地域では水路、線路脇までの草刈りを全て行わなければならない）。
- ウ 集落において地主の認識が「耕作者が土地を増やして仕事をやりやすくするためになぜ」との協力的でない考え方もある。

(3) その他

- ア 千葉県の場合は、自分が耕作できなくなった時に、まだ「あの人に任せればいい」という意識があるが、あと何年かすればそのような状況も変わってくるので、今は過渡期にある。